

コムギ黄斑病情報第 1 号

令和 7 年 3 月 5 日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

県内複数地域の一部ほ場で発生を確認しています

近年、発生地域が拡大しているため、ほ場での発生状況に注意しましょう

県内複数地域における一部のコムギほ場で黄斑病の初発が2月上旬に確認されています。本病は主に、コムギを連作しているほ場や、コムギとダイズの輪作ほ場で発生が見られますが、近年は水稻との輪作ほ場でも発生が見られます。また、発生地域も拡大傾向です。

名古屋地方気象台2月27日発表の1か月予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並か多いと予想されており、今後、本病の発生に好適な条件となる可能性があります。本病の発生が拡大する恐れがありますので、ほ場における発生状況に注意してください。

1 被害の様子

本病は、葉の上に黄褐色で楕円形の小さな斑点を生じ（図1）、それらが次第に拡大して周縁部が淡黄色、内側が灰褐色の楕円形や紡錘形の病斑となります（図2）。症状が進行すると、隣接した病斑と融合し、葉先が褐色に枯れ上がります（図3）。発生は下葉から始まり、順に上位葉へとまん延します。

2 発生しやすい条件

- (1) コムギを連作しているほ場や、コムギとダイズの輪作ほ場で発生しやすい。
- (2) 春が温暖で雨が多く、コムギが早くからよく繁茂した年に発生が多くなる。
- (3) 風通しや日当たりの悪いほ場で発生しやすい。

3 防除対策

- (1) 発病が見られた場合は、茎立期～止葉抽出期に1回、穂揃い期～開花期に1回、薬剤防除を実施しましょう。なお、うどんこ病や赤さび病と同時防除する場合は、それぞれの病害に登録のある農薬を使用しましょう。また、同一系統の剤の連用は避けましょう。
- (2) り病残さが翌年の発生源となるため、収穫後は早期に複数回、残さをすき込みましょう。
- (3) 水稻との輪作や、夏期の代かき湛水を行いましょう。



図1 コムギ黄斑病の初期病斑



図2 コムギ黄斑病の病斑



図3 コムギ黄斑病による枯れ上がり